

平成 22 年 5 月 16 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間： 2007 ~ 2010

課題番号：19510283

研究課題名 (和文) 同性婚をめぐる権利運動の理論分析から考える、「家族」の規範研究

研究課題名 (英文) A Normative Study on “Family” through Analyzing Rights Movements for recognizing same-sex marriage.

研究代表者

岡野 八代 (OKANO, Yayo)

同志社大学・アメリカ研究科・教授

研究者番号：70319482

研究代表者の専門分野：西洋政治思想史、フェミニズム理論

科研費の分科・細目：ジェンダー

キーワード：家族、同性婚、政治学、権利運動

1. 研究計画の概要

(1) 本研究は、「家族」の規範性を考えることで北米における同性婚に関する議論とケアの倫理をめぐる議論を架橋する試みであり、その目的は、少子高齢社会を向かえた日本社会において、国家主義に陥ることなく、多様性に関わった「家族」の重要性を提起しようとするものである。

具体的内容については、以下三つに分かれている。

(2) セクシュアル・マイノリティの権利論・運動論と、フェミニズム理論におけるケアの倫理から考える家族論の架橋をめざす。

(3) 異性愛中心主義や女性性を抑圧するよう作用する現在の家族制度を批判し、かつ、規範的な家族論を構築する。

(4) ケアの倫理の立場からリベラリズム・資本主義を批判すること。

2. 研究の進捗状況

(1) 同性婚をめぐる権利運動の国際比較研究については、資料収集やインタビューによって、かなりの知識を得ることができたが、その分析については、課題を残している。しかしながら、同性愛者の運動において、家族を形成することがもつ、理念的な意義については、抽出することができた。

(2) 本研究において最も重視されたケアの倫理の政治的意義と、その倫理がもつ社会の基本原則を提起し得る可能性については、十分検討し得ている。

(3) さらに、家族のなかでの営みを注視することで得た、ケアの倫理の政治的含意として、暴力装置を中心に維持される主権国家システムに対抗しうる論理を抽出した。

3. 現在までの達成度

②本研究は、おおむね順調に進展している。たしかに、現時点では、資料収集・インタビューに基づいた、同性婚を求める権利運動の国際比較については、理論的分析にまで到達していない。しかしながら、フェミニズム理論内部におけるケアの倫理をめぐる議論を概観し、ケアの倫理のもつ政治的可能性を抽出するにいたっている。そして、家族制度を超えて、家族という営みのもつ理念的な可能性をつきとめ、その可能性を示しつつ、新たな社会構想を展望するに至っている。

4. 今後の研究の推進方策

本年度は、最終年度にあたるため、国際比較研究については断念せざるをえないが、家族をめぐる規範研究、政治理論・政治思想史における稀有な家族研究として、これまでの研究成果を本年度中に著書として発表する予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4 件)

①岡野八代「女から生まれる——「家族」からの解放/「ファミリー」の解放」『ジェンダー研究のフロンティア Frontiers of Gender Studies』(2007年): 50-57。

②岡野八代「シティズンシップ論再考——責

任論の観点から——」『年報政治学』2007年2号(2007年):122-141。

③岡野八代「尊厳と二四条の可能性」『法の理論』27号(2008年):53-75。

④岡野八代「家族の時間・家族のことば——政治学から/政治学への接近の可能性」『現代思想』第37巻2号(2009年):180-199。

〔学会発表〕(計4件)

①岡野八代「家族のことば・家族の時間——政治学からの接近」家族社会学会@札幌学園大学、2007年9月8日。

② OKANO, Yayo “Post-colonialism and Gender in Japan” @ World Women’s Conference, Madrid in Spain, July, 9th 2007.

③岡野八代「フェミニズムが構想する平和」『シンポジウム 平和を担保する——シティズンシップの可能性』日本平和学会@恵泉女学園大学、2009年6月14日。

④岡野八代「新しい家族の可能性に向けて」『シンポジウム I 家族法改正』ジェンダー法学会@神奈川大学、2009年12月6日

〔図書〕(計4件)

①岡野八代「平和を求める——安全保障からケアへ——」太田・谷澤編『悪と正義の政治理論』(ナカニシヤ出版):214-241。

②岡野八代「近代思想における「愛」の虚偽」川本隆史編『性/愛の哲学』(岩波書店、2009年):65-90。

③岡野八代「家族からの出発——新しい社会の構想に向けて」牟田和恵編『家族を越えて』(新曜社、2009年):33-63。

④岡野八代『シティズンシップの政治学——国民・国家主義批判 増補版』(白澤社、2009年):302。